



カンムリウミズメ

ふれあい

平成25年9月 NO6
発行 門川町教育研究所
所長 新原とも子
TEL 63-1566
五十鈴小学校内(教育相談室)

2学期が始まりました！

2学期が始まりました。しかし、中には、なかなか調子が出ない人もいるのではないかと思います。そんな時は、早起き、早寝、朝ご飯パワーで、生活リズムをしっかりと作りましょう。門川町教育研究所は、夏休みの間も研究活動を行いました。今回の「ふれあい6号」では、夏休み期間中の研究活動の様子と西門川中学校で行った、ふるさと教育とキャリア教育をつなぐ、第1回研究授業の様子について、お知らせします。

～ 夏休み中の研究活動紹介 ～

夏季研修

研究員の知識や教養を深め、これからの研究活動を充実するために、8月7日(水)、宮崎県教育研修センターで、研究員の研修会を行いました。

研究のテーマは、子どもたちの勤労観や職業観を育てる「キャリア教育」です。門川町教育研究所の研究の様子を説明し、その後、研修センターの先生と今年の研究について話し合いを行いました。この研修会で学んだことを、これからの各学校の授業に生かしていきたいと思えます。



(宮崎県教育研修センターでの研修)

西門川中学校で第1回研究授業を行いました！

「西門川ホタル再生プロジェクト」という内容で、西門川の特徴を生かした「ふるさと教育」の授業です。

この授業は、地域のよいところを生かし、地域の人々に学ぶということで、門川高校の先生や生徒の皆さんとも協力して、取り組んでいる活動です。

門川高校の生徒が孵化(ふか)させたホタルの幼虫を育てて、西門川をホタルの里にしようという、素晴らしい取組です。生徒は、西門川の川にホタルをよみがえらせるために、真剣に話し合いました。



熱心に話し合う生徒

数が減り続けるホタル

幼虫1匹で約25個のえさになるカワナが必要。ホタルを育てるためには、えさやきれいな水が必要です。



ホタルの幼虫



ホタルのえさ



ホタルの成虫

ホタルを育てることを通して、将来、自分の目標を実現するために必要な「課題対応能力」を育てます。また、ホタル再生活動で、地域に貢献する意欲を育てる、意義のある学習です。

体験することで学びます！

ホタルのえさになるカワニナをさがして、ホタルの幼虫を飼育する体験活動に取り組みます。生き物を育てることで命の大切さに気づき、自分の役割をしっかりと果たす必要があることを実感することができます。また、新しい命をつなぐために、何をしないといけないかを考えるようになります。



熱心に授業に取り組む生徒

地域の人から学びます！

西門川中学校の生徒は、ホタルを育てる学習の中で、これまでに、門川高校の生徒や先生から、環境問題やホタルを育てる苦労などについて話を聞いています。この日は、授業参観した町内の先生方も、門川高校の先生から、ホタルを育てるための苦労や地域の環境を守りたいという、熱い思いのこもった話を聞くことができました。



門川高校の先生の話

キャリア教育では、子どもの自立を支える、家庭や地域社会の役割が大切です！

家庭の大切な役割

- ① ふれあいや体験で、人間関係を育てます。
 - ② 会話や手伝いで、夢や希望を育てます。
 - ③ 将来の進路や職業について考えさせます。
 - ④ 親の背中を見せて、生き方を考えさせます。
- 子ども達は、親の姿を見て成長します。親が子どもの手本となります。

地域の大切な役割

- ① ふれあいや交流で、喜びや感動を与えます。
 - ② 行事などで、地域とのつながりを実感させます。
 - ③ 地域の一員としての自覚を高めます。
 - ④ 将来の生き方、進路を考えさせます。
- 子ども達は、地域の大人から、社会のルールや伝統を学びながら成長します。

教育研究所からのメッセージ

キャリア教育は、一人一人の生き方にかかわる教育です。子ども達が、様々な体験をし、多くの人とふれ合うことを通して、自分の生き方考えることができるようにすることが大切です。その中心となるのが家庭や地域社会です。子ども達の成長を支え、自立をうながす、大切な役割をもっています。子ども達を取り巻く様々な問題が数多くある現在、家庭や地域社会の大人が、自分の仕事や活動を通して、子ども達に生き方を教えることが大切です。

子育てや教育のことなどで、悩んでいませんか？

困った時、迷った時は、
教育相談室に気軽に電話をしてください。

相談電話（門川町教育相談室）

63-1566

~~~~返信欄（教育研究所便り「ふれあい」へのご意見やご感想をお聞かせください。）~~~~